

第23期 国立市社会教育委員の会（第6回定例会）会議要旨

令和元年10月21日（月）

〔参加者〕 苫米地、西川、石居、富田、佐々木、根岸、倉持、笹生

〔事務局〕 伊形、井田、長谷川

西川議長 皆様こんばんは。まだ見えていない委員も3人ほどいらっしゃいますけれども、定刻になりましたので始めさせていただきたいと思います。

最初に、10月から事務局のメンバー体制に変更がありましたので、そのご紹介をお願いしたいと思います。

事務局 事務局です。10月1日付の人事異動がございまして、事務局から、長年社会教育関係を行っておりました藤田が、図書館に異動となりました。その図書館から入れかわりで、長谷川がまいりましたのでご紹介させていただきます。

事務局 10月1日より生涯学習課に異動してまいりました、長谷川と申します。まだ日も浅く、こういった場で皆様のお話の中から勉強させていただければと思っております。よろしく申し上げます。

事務局 事務局の体制の変更について、ご報告は以上です。よろしく申し上げます。

西川議長 ありがとうございます。

続きまして、いつものように事務局から資料の確認をお願いします。

事務局 資料の確認をさせていただきます。

まず、本日、第6回定例会の次第でございます。

資料1としまして、「生涯学習情報の集約・発信事業について」と書かれた資料。

資料2としまして、9月30日付の要望書です。

その他の資料といたしまして、前回の議事録、「公民館だより」、「図書室月報」、「社教連会報」になります。「いんふおめーしょん」はまだ来ていなかったもので、ございません。

それと、机上に報酬明細をお配りしています。大変恐縮ですけれども、前回お配りするのを私、失念しておりまして、申し訳ございませんが、2カ月分入っておりますことをご了承ください。

資料確認は以上でございます。

西川議長 はい、どうもありがとうございます。

これまで過去2カ月間、生涯学習情報の集約・発信について話をしてきましたが、きょうも引き続いてその議題で議論を進めてまいりたいと思います。

それで進め方なんですけれども、いつもですと議題に入って、その後要望書についての話をするというのが順序なんですけど、きょうはちょっと順序を変えて、要望書から先に取り上げたいと思います。

今回いただいた要望書は、これまでの議論を踏まえていただいたものなんですけれども、きょうの議論、これからの進め方にもかかわる話ですので、順序を逆に話をしたいと思います。

では事務局から、その要望書についての説明をお願いします。

事務局 では、資料2をお手元にご用意いただいでよろしいでしょうか。

9月30日付、受け付けましたのが10月8日になりますけれども、見出しが「国立市生涯学習振興・推進計画」の内容に沿った議論を求めます」という要望書をいただきましたので、ご報告をさせていただきます。

大きな見出しだけ読ませていただきます。

1つ目、「情報の収集・発信」の「情報」は、市が主催する講座やイベントに関する情報に限定されています。それ以外の「情報」についての意見は慎んでください。

2つ目、「生涯学習」の再定義など、無駄なことに時間を使わないでください。

裏面に行ってくださいまして、3つ目、言葉は意味が伝わるようにきちんと使ってください。

4つ目、「18.9%」は市の講座についてのもものではありません。データの読み取りは正確にしてください。

以上、4つの項目について要望をいただきましたので、ご報告させていただきます。

簡単ですが、以上でございます。

西川議長 ありがとうございます。

大変貴重なご意見をいただいたと私は思っているんですけども、これについて委員の皆様から、ご意見なりコメントがあれば、いただきたいと思っています。いかがでしょうか。

というか、まだお目通しいただいていない方もいらっしゃるかな。少し読む時間をとりましょうか。

佐々木委員 これ、事前にもらったから、みんな見ているはずですよ。

西川議長 大丈夫ですか。はい。

富田委員、お願いします。

富田委員 要望書の1については、確かに計画の中で市の生涯学習情報を集約する、2番目に市民団体とかの情報を集約するって分けてあるので、やっぱり分けて考えたほうがいいだろうと思います。

それと、4番については確かにそうで、18.9%というのは市民のアンケートに答えた方が、何らかのそういった学習をしていますかということに対して答え、で、情報は届いてますか、「届いていない」が18.9%で、何らかのという中にすごくいっぱい含んでいる。それこそカルチャーセンターもあるし、生涯学習という名前で受け取った方が、どこまで広く考えるかということもありますし、だから、市の主催する講座が18.9%の方に届いていないという意味ではない、というのは確かですね。だから、1番とも関連して分けて考えるというのは、非常に重要だと思いました。ご指摘いただいて。

西川議長 はい。どうもありがとうございます。

ほかにはあるでしょうか。

では、私のほうからお話ししたいと思います。1番の情報発信については、国立市のこの計画の中では民間のイベントとか講座とかは扱わない、対象にしないということになっていまして、まさにそれはそのとおりです。

今、富田さんから分けて、ということがありましたけれども、民間のものを扱うことはできないと思います。ただ、市なのか、民間なのか、例えば市じゃ

ないけれども社協とか、まちづくり観光協会とか郷土文化館とか、こういうところは、対象となり得るかもしれないし、その範囲までだったら恐らく、検討してもいいんじゃないかと思います。今後これから議論していくとき、これは事務局の見解も含めながら、そういう市でもなく、民間でもないようなところについてまで、検討の対象にしていきたいと思います。

それと2番の生涯学習の再定義について、本当にご指摘くださったことに感謝します。前回は、そもそもどんな人が、どんな学習を求めているのか、つまりターゲットがどんな生涯学習を求めているのか、というような議論を少し踏み込んでやりました。個別具体的な、最終的な計画、報告に落とし込む前に、一度はそういう議論もしたほうがいいんじゃないかということをやってみたわけですが、この諮問は、生涯学習を定義することが目的じゃありませんから、前回議論したところまでにとどめて、これからの議論は具体的な報告をつくっていくことに集中して、行っていくべきだろうと考えています。

3番目の「人と人のつながり」発言についてですけれども、都市社連協の統一テーマも「学びと活動の循環をつくる ～「つながり」と「地域課題の解決」」となっていて、社会教育の大きな潮流としては、つながりというテーマがあるのは確かです。

だからといって、そのつながりを大切にするから学習を強要するとかいうことはあり得ない、別の話ですし、生涯学習の方向性を行政がそれで求めるようなこともないと思いますし、社会教育委員としてもそういう方向づけを求めることはしないようにしたいと思います。

それと4番目、18.9%ですけれども、これも市の情報の発信が18.9%ではなくて、ご指摘のとおり一般的な生涯学習活動の情報を得ていない人が18.9%というところです。情報を得ていない人を減らしていくというのは、要するに情報を得たい人が、得たいと思ったときに得られないという状況をなくす、情報を得たいときに得られる環境をつくっていくということが目的です。学習が始められるような環境づくりや支援を積極的に行っていくというところですから、要望書の中では学習が強要されるんじゃないかということをご心配いただいているようですけれども、そういうことは決してない、環境づくりをうまくやっていくということが、今回の目的だと思っています。ですから、きょう以降の議論も、そういう方向で進めさせていただければと思っています。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

続いて、それでは本題の資料1に入っていくんですけれども、前回セキュリティーのところ富田委員から発言があったことで、宿題が一つありました。そのことについて、まず事務局からご説明いただきたいと思います。

事務局 事務局です。前回、富田委員からお話いただきまして、宿題となっていたことは大きく2つに分けられるのかなと思っています。

1つ目は乗っ取りを含めたサイバー攻撃に対する対応策的なもの、2つ目が炎上防止に対する対応策、この2つだったかなと思っています。

まず1つ目の乗っ取りを含めたサイバー攻撃の対応策でございますけれども、市のホームページの方は、都と同レベルの基準で構築されておりまして、もちろんサイバー攻撃は日々進化するものなので、100%ということはないんですけれども、攻撃を防ぐことができるような仕様となっているものでございます。

続いてSNSでございますけれども、市のほうで説明させていただきましたとおり、LINEですとかツイッターなどのアカウントを持っているんですけれども、パスワード管理を徹底しておりまして、また個人間のやりとりをせず、ツイッターだと発信する一方のみとすることで、アカウントの乗っ取り等を防

いでいるというような状況でございます。

2つ目の炎上防止に対する対応策ですけれども、例えばこういうことを上げてはいけないですとか、明文化された基準はないというのが正直なところでございます。各課の判断で発信することになるんですけれども、例えば担当者個人の判断で発信するということは行っておらず、必ず複数の目でチェックする中で、内容を上げていくということで、炎上を起こすような情報を流さない対策とさせていただきます。

簡単ですが、以上でございます。

西川議長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。富田委員、どうでしょう。

富田委員 市全体としてそういうふうに行っているのと伺ったので、現在そういう形でやっていると。今回私たちが生涯学習の情報を発信するとき、どういう問題が出てくるかというのはまた、随時考えていかなきゃいけないんだと思いますので、市としてやっていると。はい、ありがとうございます。

西川議長 今、市の方針をご説明いただいたわけですが、当然これから議論の中で、提案をするときに、これは気をつけたほうが良いというような項目、提案があれば、それはその都度していただくということだと思います。ありがとうございます。

それでは、具体的な議論に移らせていただきたいと思っております。

既に事前にお配りしてありますけれども、資料1「生涯学習情報の集約・配信事業について」、きょうはこのペーパーに基づいて議論を進めていきたいと考えています。

まず、頭のところに基本方針というのを書きました。これはどういうことなのかというと、国立市の生涯学習振興・推進計画には基本方針というのを書いてあって、ここに書いた3つですね、1)学習権を保障する計画、2)学習者の視点に立った計画、3)市全体が実施する計画、この3つを基本方針として、具体的な政策を考えていきますというふうに書かれています。ですので、これから具体的な方法を議論するとき、ここに書いてある基本方針を確認しながら、進めていったほうが良い、というか、ぶれないためには確認する必要があるということから、今回ここに基本方針を書いています。

最終的な報告をつくるときには、これは除くんですけれども、これからの議論のために、これらを踏まえてというふうにしていきたいと思っております。

よろしいでしょうか。

それでは、具体的な方法として、4つに分けて進めていきたいと思っております。

生涯学習情報の集約と発信ということですので、まず集約のカテゴリーとして、生涯学習の観点でのホームページの整理が1つ、もう1つはサークル・団体紹介の内容充実、ということにしました。多様な手段での情報発信として、SNS活用と、冊子・パンフレット等による情報発信。こういうふうに4つに分けて、これらの柱をもとに、最終的な報告書をつくっていくというふうにできれば、と考えています。

過去の会議でいろいろな議論が出ました。その議論で、この4つの項目に該当するものについて、ここにざっとメモをしてありますけれども、きょうはここに書いた項目をさらに深めていく、足りないものもあるかもしれませんから加えたり、あるいは中身をもっと深掘りしたり、というふうな形で進めていくことになるので、よろしくお願ひします。

頭からいきたいと思います。生涯学習の観点でのホームページの整理では、大きく分けてこれまで2つあったかと思っています。1つは生涯学習のポータルサイトを開設するという、イベントカレンダーのわかりにくさを解消する、積極的に活用していくということ。これらがあったかと思っています。これらについて、議論を深めていきたいと思っています。

具体的にどういうふうにしていくのかということまで、きょうは深めていきたいです。例えば、きょうはまだ倉持委員がいらっしゃらないですけれども、生涯学習のポータルサイトを設定したほうがいいのか、それとも設定しないで、イベントカレンダーには今、生涯学習のさまざまな情報がありますが、決算委員会みたいなスケジュールまで全部入っていますけれども、そこを生涯学習がわかりやすい形で整理していくのがいいのか、まずはそのところを議論したいと思っています。

ポータルサイトをつくっていくべきなのかどうか、イベントカレンダーを充実させるのはどうなのか。ここについて、ご意見があればお願いしたいと思います。

あんまり限定し過ぎて話がしづらければ、ポータルサイトやイベントカレンダーについてのご意見でも結構です。

富田委員 質問なので。「独立した玄関口／公民館・図書館のような」というのは、どういう意味か教えてください。

西川議長 今、国立市のホームページを見ると、図書館とか公民館とか、バナーが張ってあって、そのページにポンと飛んでいくような形になっています。ですので、例えば生涯学習というバナーをつくって、生涯学習のページにポンと飛んでいくような形、これがイメージです。

富田委員 はい。わかりました。

西川議長 じゃ、笹生委員。お願いします。

笹生委員 笹生です。私個人の意見としては、ポータルサイトよりもイベントカレンダーを充実させるほうがよいのではないかと思います。その理由は、単純に予算的な話がかかなり大きいというのが一つです。

それと、現状のイベントカレンダーの情報のアップのされ方が、前回事務局の皆さんに教えていただきましたが、やはり載せるか、載せないかの線引きが、その推進主体によってばらばらであるということなので、現状のカレンダーは情報が少ないと思うので、まずそっちのオペレーションを少し考えるといえますか。せっかくいいイベントをたくさんやっているのだから、もっと積極的に発信しやすいように、ホームページのイベントカレンダーの更新体制をもう少し考えるほうが、現実的なんじゃないかと個人的には考えました。

以上です。

西川議長 ありがとうございます。情報が足りないという話はこれまでも、いろいろな意見が出ていましたけれども、そちらを充実させるほうが優先だというご意見です。

あと、今ちょっと予算の話が出ましたけれども、前回もちょっと議論しましたが、予算の話は次にしましょうというか、我々のマターじゃなくて、むしろ教育委員会のほうで考えていただくので、予算が問題だからこれは意見として出すのはやめましょうというのはちょっと、対象外にしたいと思っています。

ほかにはいかがでしょうか。苫米地委員。

苫米地委員 やはりホームページを整理するということが大切です。特に情報カレンダーのところは、前に比べるとたくさん載り始めているのかなと思っていますが、やはり、もう少しわかりやすくなるといいなのではと思っています。

また、可能かどうかはよくわかりませんが、これだけすてきな講座をたくさん開いている公民館の情報も、情報カレンダーにうまく入れてほしいと思っています。以上です。

西川議長 ありがとうございます。

充実させるべきだと、以前根岸委員からも、ホームページは網羅的に、全ての情報が入っちゃうような形にするべきだというような意見もありました。だから、ホームページに生涯学習の情報が網羅されているように、充実されているのがとりあえず優先だということでしょうか。

富田委員 富田です。前にも言ったとは思いますが、改めてイベントカレンダーのページをきょう見てみて、あまりの寂しさにがっかりしました。

もちろん議会情報なんかも大切なんですけど、公民館に関してクリックしてみると、私が行くようなのは載っていないとか本当に1月で3つ、4つで、子ども関係とか、しょうがいしゃのスポーツとか、というのがなぜか載っていて、ほかのは載せないのという感想を持ちました。本当に望むべくは、全ての講座を載せてほしいと思いました。ただし、連続講座とか半年区切りで連続で、募集は4月だけみたいなのもありますので、それは始めるときでもいいのかな、単発で参加できるならそれも載せてほしいなという。

そうしますと、ものすごい量になりますね。1日にダーッと、10個ぐらい並びそうな。ほかの図書館とか、体育館の学習としての教室みたいなのもあると思うので、それも載せていったらすごい量になってしまうと思いました。それでもいいと思うんですが、たくさん載っていて。

イベントカレンダーはそういうものを望んでしまいました。だからホームページとして生涯学習のバナーをつかって入りやすくするというので、いろいろ方法はあると思うんですが、そういう学習情報を全て並べる、なるべく並べる。それから公民館なら公民館のページに飛ぶようなページにするという形で、いろいろ工夫は考えられると思うので、私は両方やったらいいなと思っていますが、今のところ。

西川議長 ありがとうございます。

きょうは実はプロジェクターを用意してくださっていて、つながっているので、今ちょっと、国立市のホームページのトップページを見せていただけますか。具体的に見ながら、バナーとか、イベントカレンダーを見てみたいと。

佐々木委員 ちょっと確認ですが、イベントカレンダーってさっきのところ、これ、カテゴリーがすごいあるんですが。

(ホームページ表示中)

事務局 トップページはこちらになりまして。左側の列のほうを下に行くと、イベントカレンダーのトップがあります。左の中段です。

西川議長 上に、公民館とか図書館とありますけれども、あそこに例えば生涯学習の

バナーをつくるというふうなイメージかと思います。ポータルサイトというのは。

佐々木委員 今、カテゴリーがあるじゃないですか。これはこんなに、10個ぐらいある、あれでかなり、探しやすいのか……。

事務局 イベントカレンダーの上に図書館、公民館というバナーがあって、飛ぶものがございまして。

西川議長 さっき、笹生委員がここを充実させたらいいんじゃないかというご意見でしたけれども、イメージとしてはここに、まさに今、決算委員会とか会議の話なんかが入っていますけれども、ここに並列して生涯学習の情報を載せていくと、そういうイメージですか。

笹生委員 はい。富田委員のおっしゃったことがすごく、そのとおりだと。あり過ぎなぐらい並んでいるほうがいいんじゃないかと、私も思います。

佐々木委員 佐々木ですけど、先ほど生涯学習のところをクリックすると何もなかったの、スポーツのとなりの生涯学習、ここを見ると、ほとんど何も出てこなくて、1個だけ出てくるのかな、スポーツは。しょうがいしゃのスポーツ、パラスポーツの講座が出てくるぐらいで、あとはあんまりなかったの。これが寂しいというご指摘だったんじゃないかと思うんですけど。我々は生涯学習のあそこのところを充実させたいと思ってたのに、あんまりないなというところですね。

西川議長 まずは情報を充実させるというご意見が多かったと思いますけれども。あとは、今、「生涯学習・図書館」というふうになっていますけれども、このところの見出し、表現とか、何かもっと、ここに行けば生涯学習のイベントがダッと一覧で出るよ、みたいなことがわかるつくりにしていく必要とか、ないでしょうかね。つまり、このボタンの整理というか。

佐々木委員 佐々木です。また意見なんですけど、生涯学習はそこにあるじゃないですか。生涯学習とは何かという議論は、宣伝も入れようという話になったけど、じゃあ、スポーツは違うのか、芸術は違うのか、何が何なのかというあたり、生涯学習で我々は何を市民の方に、情報が届かない人に届けるつもりなのか。逆に言うと、たくさんスポーツや文化、いろいろなものがあって、そのほうが良いという気もするけど、そこを集約してしまうと、そこからもう一遍選ばないといけなくなりますよね。

だから生涯学習とは何かという大きなことが頭の中にイメージであって、その項目としてふさわしい、音楽があったり、美術があったり、文化があったり、そのほか人権の問題だったり、暮らしの問題とか、法律とか、必要なことがすぐ探せるようにしてあげたいという気持ちはわかるんですけど、じゃあ、そのカテゴリーをたくさんにしたらいいかというと、これもあんまり多過ぎてでもですし、その辺の分類が、頭が痛いところだと思います。

西川議長 その具体的な方法として、どんなことがありますかね。

佐々木委員 例えばスポーツでいいますと、テニス一つ教えるにしても、初級か、中級か、上級かとかあるわけですね。経験者、未経験者もあれば、学年だって、

未就学児もあれば、高校生、大学生、年齢もあれば、レベルもあれば、でもある程度レベルが高くなった人は、自分でもう既に知っている。

情報が届かない人というのは、今からやろうかなという初心者とか未経験者、そちらの人のほうになりますよね。だから、今の芸術のところでも、お茶や生け花、何か習っているとか、ずっとやっている人はもう情報は知っていて、毎週なり何なりアクセスしていると思うんですね。何も知らない人に、チャンスとしてこういうのがありますよという情報を届けるのであれば、初級編みたいな人に届くような項目も、たくさんつくるべきだなという思いはあるんですけどね。

西川議長 今、佐々木委員から、最初のほうの意見で、生涯教育とは何なのか、生涯学習とは何なのかということが、そもそもきちんと伝わる必要があるというご意見でしたけれども。例えばイベントカレンダーで整理するんじゃなくて、ポータルサイトをつくって、ボタンを押すとポンと、生涯学習のことが書いてあるページに飛んでいって、そこに、そもそも生涯学習とは何なのかとか、生涯学習の魅力みたいなことが書かれていると。そういうほうがいいというようなご意見の方はいらっしゃいますか？ イベントカレンダーとは別に。

石居委員 石居です。どちらでなければというのが必ずしもあるわけではないのですが、イメージしていたのはポータルサイトですね。ただ、ポータルサイトといったときの事実上の中身でメインになるのは、このイベントカレンダーの生涯学習版のようなイメージでした。

多分メリットの一つは、今は市のホームページに行って、そこにバナー（リンク）があって、カレンダーに行ってしまう感じになると思うのですが、ポータルサイトができると、市のページを経由しないで、例えば検索エンジンで、「国立市 生涯学習」などと入れると、国立市生涯学習ポータルサイトがいきなり出ると思うのです。ダイレクトにそこに行けるというのは、小さいことなのですけれど、多分そういうところがアクセスのしやすさということにかかわってくるのではないかと思っています。

前に須坂市や銚子市を例に出したのも、検索エンジンで「市町村 生涯学習」などと入れて、出たのがそのあたりだったということもあります。そういうところだと、やはりアクセスがしやすいと思うのです。なので、ポータルサイトを立ち上げる意味の一つは、そこにあります。

あとカレンダーでいうと、今だと市全体のスケジュールが出て、そこから生涯学習に行く、スポーツを見ると、議会の予定でもスポーツ絡みのものは残るようになっていっていると思います。カテゴリーを絞り込んだとき、全体に出た情報のうち、スポーツにはこれしか反映しないとか、そういう限定はされていなくて、複数の項目で幾らでも絞り込みをかけられるようになっていっていると思うのですね。それは生かすべきだと思っています。スポーツに入っている情報が生涯学習でも同じように、広く生涯学習に関わるものが並べばよいのであって、一つのイベントを一つのカテゴリーにひもづける必要はないと思います。

ですから、最初の段階では情報があり過ぎて困るという印象のものになってよいですし、そこから絞り込んでいくときに、もう少し有効な絞り込みにつながられるような項目を、大、中、小ぐらいで準備しておくとういいます。

西川議長 今、検索の面から独立したポータルサイトにしたほうがいいんじゃないかということと、カテゴリーの整理の仕方ですね、その提案をいただきました。ほかにはありますか。よろしいですか。

富田委員 富田です。カレンダーが何でこんなに情報が少ないのか、各担当部署が出してくださるんだと思うんですが、それがここには、カレンダーには届かないということなんですかね。で、国立市ツイッターを見たら、まあ、これよりは多いですね。ただしツイッターはツイッターで、どういう基準で入っているのかなという、大事な災害情報が並んでいる中に、担当課が書いていないイベントもあるんですね。そういうのも入っちゃっているの。庁内的に調整が必要なのかと思います。

事務局 事務局ですけれども、イベントカレンダーに載せる、載せないというのは、各課の編集がどうするかというところにかかっている部分で、統一的にできていない部分があるのかなと思う部分の一つ。

もう一つは、これは私の個人的な考えなんですけれども、例えば定員制で事前申込制のものになりますと、人気があるものは載せてもすぐ締め切られてしまう。開催日にだけ情報が載って、申し込みですぐいっぱいになっちゃうとわかっていると、イベントカレンダーに載せていいのかなというふうに思ってしまうのは、正直なところ。完全に個人的な見解ですが。

以上です。

事務局 済みません、補足で。今の話なんですけど、載っていない理由は恐らく、正直、職員の中でもホームページに載せることだけをまず主流としているのが現在、つまりホームページに載せさえすれば、まずはいいよねという考え方が一つあって、そこにプラス、このイベントカレンダーをどんどん活用していこうというところが、どれだけ周知されているか。例えばツイッターですとかそういったものに関しては、結構積極的に、所管が書いていないというのは問題かなと思いますけれども、そういった部分についてやっていくところがある。

生涯学習情報やスポーツの部分を見ると、図書館や公民館、社会教育施設については、ああいう形で載せて、ゴールボールってたしか公民館の講座だったと思いますので、そういったものは載っている。ただし、公民館は公民館独自のものを全部載せているわけではないので、そういった統一性がないのでこんな形になっている。

恐らくこれは、議会事務局とかが手がけている議会の部分とかはきっちり載せているような状況で、議会は議会です市議会という、公民館とか図書館の上のほうにバナーがありますから、いつやっているかをすぐ見るのはこっちのほうが多分早いです。

そういったところで使い方を、この学習情報の中でも職員間の情報共有みたいなのがたしかあったと思うんですけど、そういうところも一つあるかなと。つまり、使えるものをきちんと使いこなして切れていない可能性もちょっと視野に入れながら、その辺は確認をとらなきゃわからない、例えば全ての課に、これ、ちゃんとわかっててこういうことで使っていますかと、一回全部整理してみないとわからないですけど、そういったところも一つの、ある、ないがこうやってはっきり分かれているというのは、そういうところかなと思います。

佐々木委員 例えばスポーツだと、私達の下に体育協会があるんですよ。体協のさらに下に、21団体があるんですね。そのそれぞれが、市民大会を運営したり、おのおのホームページを持っているわけですね。ところが天候で、雨天順延ですよと朝の7時とかに出すと、その情報を市民に言いに行き、会話しているそのつながりがないわけですね。だからなかなか、情報は常に生きているものだから、最新情報を載せろと言われても、お互い、市のほうも大変だし、各連盟も大変だし、我々体協のほうも、全部把握しているわけじゃないし。

ということで、多分、生きた情報を本当の生で載せようとしたら、大変な手間と労力になってしまうんじゃないかと思うんです。だからその辺は、本当に市としてどこまで載せるべきかというのは、多分あると思うので、細かいところは各連盟のホームページとか、そこに直接行かないと、もう無理でしょうね。情報の操作というのは、手間だけでも大変ですし、みんながみんな、各連盟がホームページをさくさくできるわけじゃないので、大変ですよ。ということです。

西川議長 今、情報が少ないとか、あるいは情報が少ない裏には載せる人と載せない人がいて、載せやすい情報はすぐ出るけれども、そうじゃない情報は出ない。それと佐々木さんの意見にあったように、細かい情報はなかなか、ここではフォローできないと。それはもう、そこから先のページに委ねることなのかもしれないけれども、そんな意見がありました。

今、聞きながら思ったんですけど、こういうことをやるための生涯学習のページの編集長といいたいでしょうか、要するに生涯学習を見る側の立場に立って、こんな情報があったらいいんじゃないか、だからここに働きかけて情報を出してくるように頼むとか、あるいは細かい情報が先のページに出ているかどうかまでチェックして、なければそこに発信するように促すとか。何かそういう、見る側の立場になって総合的に考えるような担当者といいたいでしょうか、編集長ですね、いわゆる。雑誌とか本をつくるとすれば、編集長。そういう立場の人を置くというのも、一つの方向としてあるかもしれませんね。

事務局 それは主語はどこになるか、どこがそれを置くことになるんですか。

西川議長 主語は、まあ、国立市の中で、ということなんですけど、生涯学習ということだと、その辺が一番詳しいのは生涯学習課かもしれません。

事務局 そうすると、その編集をするのは、じゃあ、生涯学習課のほうでやるとすると、その度合いですとか、入っているか、入っていないかの部分は、人によって変わってくる可能性があるのと、やはり今言ったように、いいものは載せる、悪いものは載せないという判断が、市にまた来ちゃうんですけど、それはいいんでしょうかねという。人によって変わってきてしまうところがちょっとあるので、そういう考え方も一つかなと思うんですけど、できれば、どういう情報を載せていくとか、コンテンツのほうでご意見をいただきたいと思っています。

西川議長 ただ、人によってぶれるとしたら、何かガイドラインをつくっておくとか、やり方は何かあるのかもしれないですね。それは多少個人差はあるのはしょうがないですけど、必ずこういうところはチェックして、目配りをして出すとか、それぐらいは、事務局のところにかかってくるんじゃないかと大変だというのはわかりますけれども。予算だとか人的なリソースとか、それはとりあえず置いておいたとして、提案としてはあり得るのかもしれない。

要するに、市全体が実施する計画というのが、そもそもこの方針にも書いてあるということから考えると、そういうこともありなのかなという感じがします。

何かご意見は。

富田委員 富田です。私、公民館のことをつい考えてしまうんですが、体育館のほうがよくわからないので、申し上げちゃいますけれども。公民館の講座を出すと

というのは、公民館から情報をもらえばそのまま、できるんじゃないかという気がするんですね。だから、前提、網羅ですよ。連続講座だったら、1回目でもいいかなということはありませんけれど。

先ほどの定員オーバーになりそうなものというのについてですが、今現在、これからやりますよというのは、情報として定員何人と入っていて、それは公民館だよりでも同じです。もう定員がいっぱいでだめなのかなという時期には、問い合わせたりという形で情報提供できていると思います。それに、定員いっぱいってそんなにないですから、載せられるんじゃないかなと思うんですね。

それでポータルサイトの編集長、カレンダーの編集長的なことは、やっぱり生涯学習課の責任でやっていただきたいと思うんですね。それを各担当部署に、なるべくそちらから情報自体はもらって、載せるという形で、できるんじゃないかなと。私の知っている範囲では、公民館ぐらいですけども。

佐々木委員 ちょっと質問です。公民館は今、どうやって載せているんですか。あなたが打っているんですか。それとも誰かに頼んでいるんですか。どんな形にするとか、例えば文字の数とか、どこかの誰かがタイプを打っていないと、あれ出てこないわけですね、全て。そうしたら、ある程度生きた部分を載せようと思ったら、それだけでもホームページをその瞬間だけクローズにして、そこに打ったりとか載せてみて、位置や何かを全部調整して出しているわけですよ。そういう手間だけでももう、1行変えるだけでもかなりの、数分間の時間がかかっているわけですね。あらゆるホームページ、たくさんページがあると。

それにバナーを張るとなると、そのバナーが生きていのかどうかも全部チェックしないとイケないから、かなりの手間だけど、それは公民館は簡単にできるんですか。

富田委員 それは市のホームページ管理がやってらっしゃるんですよ。

佐々木委員 プロがやっているから、ということですかね。

富田委員 プロっていうか、各担当部署とホームページ自体の関係はどういう機械操作になるんですか。

事務局 事務局です。ホームページのレイアウトのお話も含めてということですかね、佐々木委員。

佐々木委員 そうです。要するに何かを変えようとしたら、例えばさっき、もう一つここに何とかスポーツが追加になりますといったとき、誰かがこのマークとこの文字を打って、そこに触ったら次のところに飛んでいくなり何なり、全部それを打たなきゃいかんわけですから、それをどういうふうにしてやられているんですか。市は市でやられているのはわかるんだけど、図書館は簡単にできますよっていうから、図書館はどうしているんですかっていうふう聞いた。公民館のほう。

富田委員 公民館のページですよ。

佐々木委員 はい。それも市にお願いしてやってもらっているんですか。それとも公民館は公民館で単独に、どこかにアウトソーシングしてる、ソフトウェア屋さんによっていただいているんですか。

富田委員 いや、職員さんがやってらっしゃるんだと思いますよ。

佐々木委員 職員さんは、職員さんの扱うホームページビルダーとか、そういうソフトを自由にお使いになれるということなんですね。その方は。

事務局 事務局ですけれども、ホームページの編集システムというのがございまして、それに、当然テキスト情報は手で入力するなり、ほかで使った、例えば市報原稿とホームページの内容がほぼ似たような内容になってくことも多いので、コピー・ペーストの場合もありますけれども、それでホームページのシステムの中に入力していくと、こういった体裁的、レイアウト的なものはシステムのほうで自動的に配置されるような仕組みになっています。  
というようなお答えで、大丈夫でしょうか。

事務局 ちょっと補足で。今のお答えすると、公民館だろうが、全てのものだろうが、そもそも編集の権限はそれぞれの課にありますので、その課で今みたいに新しいものを一個つくるという場合には、同じことの繰り返しになっちゃうんですけれども、新しいページをつくるよということで、テキスト、文字ですね、を全部打っていったり、写真はここの位置に張るよとか、そういったことが枠の中にフォーマットがありますので、そこを全部打ち込んでいく。それを一回オクケーにすると、今だと担当から課長職に対して、これ上げていい？ と上げて、課長職は全部、出す前のレイアウトを見ることができる。それを見た上で、じゃあ、これならここにあって、ちゃんとリンク飛んでるねとか確認した上で、出す。

もう一つが、ちなみに出すときは別にとまっているわけではないです。ちゃんと動いた状態ですけど、その上からももちろん更新もかけていくということなんです。なので、どこかの上に必ず何日付更新というのが入っています。あれがその更新のタイミングです。

例えばこれだったら、9月5日に更新。ツイートの右側です。これだったら令和元年9月5日に、少なくともこのページはつくられましたと。または修正がされた。

佐々木委員 じゃあ、公民館や図書館も同じようにやっている可能性があるということですね。

事務局 可能性というか、一緒です。システムは一緒ですから。

西川議長 今のシステムのお話ですけれども、ちょっとまた議論を戻しますと、もし仮にポータルサイトをつくるとなると、このシステムとはまた違う体系のシステムになるでしょうし、イベントカレンダーを修正して見やすくするというだけでもいいんですけれども、また違う形になってきますので。

ちょっと、こればかりにかかわっているわけにもいかないし、今、完璧な結論は出ないと思いますので、次に移らせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

②ですけれども、サークル・団体紹介の内容を充実させるというところでは、写真、動画、体験談などを入れて、サークル団体を分かりやすく紹介すると。今現在国立市のホームページには、サークル情報、団体情報は出ていることは出ているんですが、ごくごく簡単なテキストで書かれているものが多くて、あんまりビジュアルな形にはなっていない。それを見てやってみようという気を起こさせるようなページにしたいわけですので、もっと動画とか体験談、写真

などを入れたらいいのではないかと、そういうことですね。

これについて事務局から、突然済みません、今現在どうやってこういう、サークル情報を集めて掲載しているのかというところを、少し教えていただけますか。

事務局 サークル・団体情報についてご説明させていただきます。

まずホームページ、こちらの画面を見ていただきたいんですけども、掲載している情報としましては、例えばこの野球の団体さんでいいますと、こちらにあるような項目ですね、代表者名から始まりまして、連絡先、入会金ですとか、会費の有無、主な活動場所、入会条件、活動内容等を載せております。これは生涯学習課のほうに連絡いただいて、最初は紙に書いていただいて、提出していただくと、こういった情報が市のホームページに載るというものになります。

インターネット上だけだと、情報が回りきらないということもございまして、各施設、市内の15施設、生涯学習課の窓口ですとか、図書館、公民館、南北のプラザ、郷土文化館、芸小ホールも含めて、冊子の形、紙でこの情報をまとめたものを、備えつけで置いているというものになります。紙のほうの情報については、なかなか随時更新というのが難しいので、年1回の更新にさせていただいています。前年の1年間に変更があったものについて、年度が明けましたら速やかに更新をして、毎年1回差しかえをしていると。

ホームページのほうは、会費が2,000円から3,000円に上がったというようなお申し出をいただきましたら、すぐに随時更新をして、修正するようにさせていただいています。

写真情報のお話がありましたけれども、何年か前から写真を載せられるように、1団体1枚に限るんですけども、しまして、ただ現状で写真を載せているのは、数えるほどしかありません。どこの団体が載せていたか、済みません、今すぐに思い出せないぐらいなんですけれども、何団体かは活動の写真を載せているという状況になっています。

西川議長 ありがとうございます。

今、写真の情報が載せられるということがありましたけれども、それでいて探さなくちゃ見つからないぐらいしかないとすれば、それは写真を載せられるということを知らない人が多いということなんでしょうか。

事務局 そうですね。サークル・団体情報を載せられますというのは、年に1回だけなんですけれども市報でお知らせをしまして、写真が載せられる段階になってからは、写真も載せられるようになりましたということで広報はしております。ホームページ上も、サークル・団体紹介のページ、こちらに、写真を掲載できるようになりましたということで、お知らせはしているんですけど、なかなか周知し切れていない部分ですとかございまして、まだ先ほど申し上げたように数少ない団体しか、載せていない状況でございます。

苫米地委員 苫米地からの質問です。今、60歳以上のシニア野球の団体さんのホームページを見せていただいたのですが、団体が自らつくっているホームページへのリンクをするボタンをつくってもらうことは可能ですか。

事務局 事務局です。それは可能になりまして、お見せできるといいんですけど、自分たちのホームページにリンクを飛ばしたいときは、ホームページ欄というところにご記入いただくと、市のホームページにリンク先も張らせていただいております。

ります。

苦米地委員 何か動画とか、写真1枚でも載っていれば、興味のある人はそこを押して、自ら調べるのではないかと思います。

事務局 そうですね。この団体さんですと、個人のホームページを持っていらっしゃると思いますので、一番下に自分たちのページに飛ぶような形で、張らせていただいていると。

西川議長 先ほどの意見で、佐々木委員から細かい情報が、大きなイベントカレンダーでは見えないというようなことがありましたけれども、そういう細かいリアルタイムの情報などは、もう国立市のページじゃないところにつくっていただいて、そこへのリンクを、このサークル紹介のページとか、イベントカレンダーのページに載せていくというのが、恐らく一番効率的で、現実的なものかもしれませんね。

あと動画に関していうと、これは容量の関係でしょうかね。また別にポータルサイトをつくって全然違うハードウェアを設定するんだったら、話は違うかもしれませんがけれども、今のこの状態でいうと、動画は載せることができないと。ということで、よろしいでしょうか。事務局。

事務局 事務局です。そもそも前提として、市の編集するホームページは動画が載せられる仕様になっていないということで、それは容量の関係もあるのかなと思いますけれども。写真までになっておりまして、動画は載せられないと。

西川議長 はい。ありがとうございます。

サークル・団体紹介のところは、動画とか写真のことしかとりあえずここには書いていないんですけれども、これ以外のことで、ここはこういうふうにするべきだ等、何かご意見があればいただけますか。

石居委員 意見兼質問のような形なのですが、これは申し込みのフォーマットがあって、市に申請をして、その申請が認められると掲載されるという体裁ですよ。こういうものが有効に機能していくためには、まずはこうやって紹介できる機会があるのだと広く知られる必要があるということと、申請をしたときに、求めに対してできるだけきちんと応じていく、つまり申請したにもかかわらず、市のウェブサイトにはふさわしくないといった形ではじいてしまうことを、一定の基準はあるにせよ少なくしていくことが大事だと思うのです。

そういう意味でいうと、これをどれだけ広く知らせていけるかということが一つです。もう一つは、現状、どれぐらい申請があって、その申請がどれぐらい通ったり、通らなかつたりしているのかということが、前提として必要な情報かと思うのですが、そのあたりはどうでしょう。

事務局 件数を調べてくればよかったですけど、百何十団体さんに載せていただいているかなと、記憶しております。

申請が通ったり通らなかつたりというところですが、基本的に市民ですとか、近隣市も含めて大丈夫なんですけど、団体さんで構成されるこういったサークル・団体で、営利的にやっているなどがありましたら話は別ですけども、個人的な集まりということでしたら、基本的に拒否するという事はないと考えております。

石居委員 石居です。ということは、やはり活性化させるという意味では、紹介の機会がここにありますがということを広く知らせていくことと、逆に言うところいう出会いなりを求めている方が、ここに行けば情報があるのだとわかってもらえるように告知する。そこを追求することになりますか。

根岸委員 根岸です。今、私の入っている団体を載せているんですけど、非常にマイナーなスポーツなので、本当にそれをやりたいという人は、自分で調べてくるわけですよ。そこに行けば責任者の名前もあるし、本当にやりたい人は今の状態でも来ます。でも、それ以外の方は、多分ブラッと入ってほかをいろいろ見ても、あんまりそそられるものがない。これなんか、まだいいほうなんです。写真があって、外部サイトにリンクできる。こういうものが本当に多くなればいいんだろうなと思います。

先ほど言った動画についても、このホームページに載せようなんていうのは多分誰も思っていないんですけど、それもリンクで飛んで、動画を見せるという形で十分だと思います。

本当にやりたい人は探します。そうではない人をどうしますか、というところなのかなと思います。

西川議長 ここに情報を載せられるよというのは、何で周知しているっておっしゃいましたか。

事務局 市報で年1回。

西川議長 市報で年1回だけですか。

事務局 あとはこのページを見ていただくというところですか。

西川議長 ここに載せる人に対しては、市報に年1回伝えていて、ここに出してほしい人は申請してくださいよというふうにやっている。これを見るかどうかについては、ホームページにあれば検索してみるかもしれないけれども、それ以外にこれを冊子にして、市内の決められた場所に置いて閲覧できるようにしてある、ということですか。

事務局 そうですね。当然市報で載せられますよというお知らせをすると同時に、逆に、ここに行くから見られますよということもあわせて。

西川議長 市報に書いてあるわけですね。

事務局 市報には書いてあります。

西川議長 これ、こういう情報を必要としている人たちに、そういう伝え方で伝わるのか、あるいはそれだけじゃ不十分なのか。どうなんでしょうか。何かご意見ある方は。先ほどの根岸委員のお話では、本当に好きな人は自分で探して見に来ることなんですけれども、ここが要するに市のホームページで、市が発信しているものということであれば、どういう人たちがこれを見に来るのか、つまり自分のページに載せるより、市のホームページに載せたほうが、こういう人が来るからここに載せるんだということになってくると思いますし。今の周知の仕方ですり足りるのかどうかという観点でいうと、どうでしょう。

苦米地委員 苦米地です。これを見る人が増えれば周知はできると思います。そのために、これを一生懸命見てもらうようにPRをする。市のホームページのトップや目立つところに、特に載っていないのですよね。

事務局 事務局ですけれど、そうですね、トップページから直接このページには行けないです。

苦米地委員 そうすると、先ほどの生涯学習のポータル、トップページというんでしょうか、それがあると、そういうのを載せやすくなったりする、というふうになるのかなと思います。

佐々木委員 検索エンジンに引っかかるか、引っかからないかで、全部決まると思うんですよね、探したいものは。ホームページの一番頭にヘッドラインがあって、その次にキーワードのラインがあるから、そこにとにかく平仮名で打とうが、片仮名で打とうが、アルファベットでも間違っても全部バツと並べとくと、検索エンジンに何か引っかかるんですけど、文字が1文字でも合わないと、検索エンジンに引っかかってこないから、そういう引っ掛けやすいようにする裏技がありますよね。だから、ホームページをきちんとつくるといことと、引っかかりやすくすると、市のホームページまで来なくたって、直接探せばキーワード検索で、検索エンジンがどういう動きをしているかということも勉強していれば、それに引っかかるようにつくれるわけですから、あんまり市と関係なくなってくる話になるんじゃないかなと思うんですけど。

市のホームページにあるから、一回市に来て、そこから見やすいよというんじゃないなくて、もう直接打って検索エンジンに引っかかってくるようなホームページさえつくっておけば、それで動くので。という気がするんですけど。

西川議長 先ほど苦米地委員がおっしゃったように、市のホームページの中で、どこに位置づけるか、どこにこれを置いて、見やすくするのかということは、重要な論点かもしれませんね。

石居委員 伺っていて思ったことは、このページの目的あるいは位置づけの重要性です。先ほど根岸委員がおっしゃったように、一生懸命調べる方は、根岸委員が所属されている団体がもしホームページを持っていたりすれば、もう市のページを経由せずに直接団体のページに行く可能性もあるわけですよね。それを考えると、このページの意味というのは、ホームページを持っている団体にとってはアクセスできるチャンネルを増やす、経由地をつくるということだと思います。そして、多分もう一つ大事なものは、独自でホームページを持ってない、つぐれない、つぐらない団体の紹介の機会をここに用意するということなのではないかと思います。そこにフォーカスした形で、このページの位置づけをきちんとすることが、必要になるのかなと思いました。

西川議長 ありがとうございます。ホームページを持ってない、とにかく電話で申し込みを受け付けます、メールもお持ちじゃない、こういう方も市のホームページであれば載せることができる、ということですよね。まさに全ての人に、あらゆる人にできるだけ届くようにということですので、今の論点はとても重要なことじゃないかなと感じます。このことに関して、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

今日は最後までざっと、とりあえず行きたいと思いますので、次の論点に入っていきたいと思います。

次は多様な手段での情報発信ということで、SNSの活用という話になります。SNSを活用すべきだと、活用して情報がこれまで届いていない人にも、届くようにしていくべきだという議論がありました。それと、リアルタイム性を活用すべきだという話もありました。

これまでいろいろ意見は出ているんですけども、SNSといってもいろいろあるわけですよ。フェイスブックもあれば、ツイッターもあれば、LINEもあれば、それぞれ特性も違うし、使い方も違う。この辺をちょっと分けて議論してみたいと思っています。

現状の話をする、これは事務局から、また振って恐縮なんですけれども、お話を最初にしてもらったほうがいいかなと思ったのですが。フェイスブックのページは、一応あるということでもいいのでしょうか。

事務局 はい、ございます。

西川議長 ツイッターは、現在もあって、使われていると。LINEも現在ありますと。それと、ここに書いていないんですけども、インスタグラムについては今のところは持っていないというのが、現状ですね。

事務局 そうです。持っていないです。

西川議長 これまでツイッターについては、リアルタイム性を活用すべきだとか、カテゴリー別にアカウントを設けて発信すべきだとか、あるいはそこからリツイートされるようなことを意識しての発信をしたほうがいいとか、あるいは市民の誰かに活用してもらって、広げてもらうようにすべきだとか、そういうような話がこれまで出てきたかと思えます。

フェイスブックについて、こんな使い方をしたほうがいいんじゃないかというような意見がある方は、いらっしゃいますか。

笹生委員 笹生です。フェイスブックは写真を多く載せられるという点に、かなり強みがあるメディアだと思いますので、いろいろなフェイスブックを見ていても、事後報告的な、今回こういうことをやりました、で、次回はいつです、みたいな形での記録というか。ツイッター等はどちらかという告知とかに強い、あるいはライブで情報を発信するところに強みがありますが、フェイスブックはちょっと腰を落ち着けたというか、事後報告的なところに強みがあるように感じます。

西川議長 ありがとうございます。

現在のフェイスブックの使い方なんですけれども、これも事務局から、わかる範囲で簡単にお話しただけとありがたいのですが。一応アカウントを持っていて、発信をしているということだったと思いますけれども、どんな形でしょうか。

事務局 事務局です。もともと国立市のページは、「くにたち未来寄附（赤い三角屋根プロジェクト）」というもののためにフェイスブックを作成しまして、情報発信しているような状況なんですけれども。現在の使用頻度は、ツイッターみたいに、積極的に活用されている状況ではないです。

西川議長 SNSであんまり区切ると、もしかすると議論しづらくなってしまいかもしれませんね。そもそも社会教育委員の会でやらなくちゃいけないことという

のは、これまでなかなか情報が届かなかった人に届けていくということが、そもそもの目的なわけで。そのためにSNSを活用するのがいいんじゃないかという発想だと思います。

そう考えると、これまでやっていない使い方で、こんな使い方をするともっと情報が行き届くとか、これまであまり興味のなかった人が、より興味を示すようになるという観点でいうと、どんなことになるでしょうか。

これまでカテゴリー別の発信ですとか、フォロアーだとか、いろいろなことが出てきましたけれど、それ以外でもし何かあれば、いただけますか。

石居委員 石居です。一つは先ほどの笹生委員のご意見と似ていて、事後や、期間がある程度あるものであれば、期間中に情報発信することで、事前の告知では行き届かなかったような人たちが、それに触れる可能性を広げたり、実際こんなことになっているのだったら行ってみよう、あるいは今回は間に合わなかったけれど、次回があるのだったら行ってみよう、といった思いを喚起したりすることだと思います。

もう一つは、実際に市が運営するといろいろ難しいと思うのですが、それぞれの企画の現場からの声というか、担当者の思いのようなものを直接発信する機会にしてもらいたいと思っています。ホームページだといわゆる公的な情報しか出せないですけど、担当者としては今回どういうところに力を入れているのか、どんな人に届けたいと思っているのかなど、舞台裏のようなものを出せるメディアがSNSではないかと思っています。そういう発信があると、恐らくSNSの効果である、二次的、三次的な情報の拡散につながっていくかと思うので、そのあたりが、もう一つの可能性かと思っています。

西川議長 ありがとうございます。そういう舞台裏を発信するというのは、フェイスブックだろうとツイッターだろうと、全部共通ですが、ホームページは違うということでしょうかね。

笹生委員 笹生です。ちょっと事務局に伺いたいんですけど、フェイスブックを運用しているのは、市役所でいうとどこですか。秘書課とかになるんですか。

事務局 フェイスブックは、もともと寄附の関係でしたので、寄附の担当課である政策経営課のほうで、やっております。

笹生委員 そのことを伺ったのは、今後、フェイスブックをまたページを増やしましょうとか、ツイッターやりましょうとなったとき、誰が更新するのかというのが極めて重要な問題になってくると思います。石居委員がおっしゃるとおり、舞台裏みたいなものってすごく魅力的ですけど、一方でどうしてもチェックが入りにくかったり、チェックが入らないようなカジュアルな情報だからこそ、ヒットするという面もあるので、非常に難しいと思うんですけど。

なので、SNSをやろうとなったとき、誰が具体的に操作をするのか、誰が権限を持つのかという問題は、かなり外せないテーマだと思うんですね。そのときに、単純に市役所の方の業務が増えるということにもなりかねませんし、そこは我々が心配することじゃないと言ってしまえば、それまでかもしれないですけど、そこは気になるなという気はします。

事務局 事務局です。現状、ツイッターとフェイスブックで全然運用の仕方が違っていて、ツイッターはいわば市の全体として、代表するアカウントとして持っている状況です。発信としては、もともとは市長室の広報がアカウントをつく

ったんですけれども、それぞれの課で随時発信できるようにということで、各課に権限はおりてきているという状況でございます。

フェイスブックについては、駅舎に関する未来寄附ということでつくられていますので、いわば市全体というよりは限られた部分についてページがつけられたものになります。政策経営課のほうで発信していますし、発信する内容についてもかなり限定された分野で行われている、という状況になっています。

西川議長 そうなると、生涯学習のフェイスブックをつくりたいということになった場合は、その駅舎とは別に申請をして、生涯学習のページをつくっていくということになってくるんでしょうか。

事務局 恐らくそういう形になるかなと思います。

西川議長 わかりました。  
よろしいでしょうか。

苫米地委員 前も話しましたが、LINEで、向こうから送ってくれる情報は、とても役に立ちます。ホームページは自分から調べなくてはならないのですが、私のスマートフォンに直接くるLINEからの情報は、「こういうことをやりますから来てください」「期待してください」のようなメッセージや写真が届きます。しかし、LINEに登録をしていない人には、情報として入ってこないもので、登録の状況を上げる努力をするとよいのではないかと思います。また、何か技があれば、登録数を増やす策を講じるといいのではないかと考えています。

西川議長 つまり、LINEでこんな情報が入ってくるんだということを、LINEをやっていない人にきちんと伝えていくということですね。わかりました。

では、次の項目に行ってもよろしいでしょうか。

冊子・パンフレット等による情報発信ということで、この項目はネットから離れて、冊子・パンフレットをつくって伝えていくと。情報がなかなか届かない人がある、何とかしなくちゃいけないというときには、ネットだけでは不十分で、やっぱりどうしても紙媒体が必要な人もいますと。そういう人たちに伝えるということが一つと、あとこれまで出た議論でいうと、紙媒体というのはこういうスマホなんかで見るのと違って、一覧性がある。だからざっと見て、それで目について、そこに入っていき、連絡をしてみるというような行動ができる、意図せざる出会いがあるということが特性です。ですので、こういう特性を生かして、情報が届いていない人に届けるために、どんな施策を行ったらいいいのかということを、考えていきたいと思えます。

これまで出た意見としては、網羅性を重視した冊子を作成する、それと手にとりやすい、ページ数の少ない薄手の冊子をつくって配っていく、そういう方法が提案されました。あとは年間予定、これも全体が見渡せるものはなかなかないので、それが分かるようなものをつくるべきじゃないかという意見、あとこれの渡し方ですね。転入者、退職者などに渡して、ここにこういう情報があるから、どうでしょうかと配るのが有効じゃないか。こんなことが出てきました。

とりあえずこんな項目だけ書いたんですけれども、ここに加えて、こういう項目が必要だとか、もう少し深掘りしたほうがいいというようなご意見があれば、いただけないでしょうか。

富田委員 富田です。一覧性の特性を生かすという、一覧性ということが出ていますが、これに関しては私は考え方がまだ、もうちょっと考えたいなと思うんです。といいますのは、例えば2000年、大分前ですが、国立市生涯学習ガイドブックというのを出されたというのが、計画の中にありましたが、これはどういうものだったのかなと思って、勝手にイメージしますと。国立で生涯学習的なものは、こんなものがありますよというものが出ていて、例えば公民館の講座だったら、公民館だよりがありますよというような書き方でも、例えば転入者に渡すと、そこから手がかりにして、それぞれのところに入っていけるような冊子というのも、考えられるかなと思ったんですね。年に1回ぐらいだとしたら、まあ、その程度なのかな、網羅性は難しいかなと。

網羅性といっても大卒の、この施設ではこういうことをやっています、みたいなのはできるけれども、講座自体、イベント自体の網羅性というのはなかなか難しいかなと思っていますところなんです。

西川議長 その数年前につくった生涯学習ガイドブックというのは。

富田委員 2000年です。

西川議長 それは、イメージがわかるように説明してもらえますか。

事務局 今、ものを持ってきているところですけど。実物を回覧していただくのが一番早いんですが。かなり昔の段階のサークル団体の名簿、個人名、個人の連絡先が入った状態ですので、済みませんが、ちょっと回覧はご勘弁いただきたいんですけども。今となってはというところではありますが、個人の方の名前は。こういう形で、生涯学習の施策一覧みたいなページから始まりまして、どんな事業が、どこの場所で、いつ行われているかという事業一覧が、20数ページにわたって載っていると。その後にサークル・団体の名簿が、かなりのページ数にわたって載っていると。あとは施設一覧が載っていたり。というような、つくりになっています。

このあたりのページは見ていただいても大丈夫かなと。

西川議長 ありがとうございます。これが20年前につくられて、それからつくられてないというのは、どういう理由なんですか。

事務局 その後つくられていない理由ですよ。

西川議長 まあ、結構です。

佐々木委員 まあ、何となくわかるね。

西川議長 ちょっとこれまでの議論の中では、そういう網羅性のある冊子が、一つあったほうがいいんじゃないかというご意見が出ましたけれども、既にこういうものが一度はつくられたのであれば、これをもう一度作り直すということになるんでしょうか。

倉持委員 倉持です。前の前の期のときに、それを参照させていただいたような記憶があるんですけども。何か審議会との関係があったような気がするんですけども、網羅性といったとき、何を内容として掲載するかということを議論したほうがいいんじゃないかと思うんですけども。また、自治体なんかだと、

あれよりもうちょっと分厚い形にして、例えば市内、区内の生涯学習の施設、事業、関係団体、公的なもの、民間のものを載せるところもありますけれども、あとサークル・団体一覧などが掲載されていて、よく引っ越してくると市役所から、地域にこういうところがありますとか、ごみの出し方はとか、いろいろくれる情報があると思うんですけど、その文化・生涯学習版、スポーツ版みたいな感じを出している自治体は、結構あるんじゃないかなと思います。

そういうふうに統合的に、施設だったり、団体だったり、事業、講座だったり、自主サークルですね、その中のどれかを載せるって考え方もあると思いますし、それらの全てを載せるということもあると思いますけど。

今、サークル情報なんかは、施設で管理しているんですけど。

事務局 受付主体は、生涯学習課でやっています、いろいろな施設、市内の15施設だったかと思うんですけども、冊子の形で。

倉持委員 閲覧。

事務局 閲覧用です。

倉持委員 みたいな形で、この冊子の要は使い方だと思うんですけど、たくさん印刷するとお金がかかるので、お金の問題もあると思いますけれども、配布する性質のものなのか、閲覧する性質のものなのかということによっても、サークル情報はどうしても、代表の名前と電話番号を多分載せていますよね、もちろん載せないとする、それを仲介する職員が必要になっちゃうので、結局情報の使い方がまた出てくるので、冊子をどう使うかということとも関連すると思うんですけども。という部分があると思います。

例えば、私、前にかかわったことがある埼玉の狭山市なんかだと、サークル情報なんか、毎年更新するんですけども、代表がかわったり、連絡先がかわったり。それを市民の生涯学習NPOみたいなのを住民主体、行政もサポートしながらつくって、そこに委託するという形で、その団体名は忘れちゃったんですけど、生涯学習の支援をする市民団体みたいなところが更新作業を、情報を収集することも、更新することも、実際にパソコンを使って作成するところもやる、というような自治体もあったりします。

これ、全部はちょっと難しい、種類が多分Aパターン、Bパターン、Cパターンみたいな感じであるんじゃないかと思うんですけども、さっき富田委員がおっしゃったみたいに、何をいつやるということ、例えば年間のいつやるとわかっていなくても、大体いつごろにあるかということがわかっているだけで、その時期になったら市報をチェックしようみたいな、そういう効果はあるんですね。だから例えば環境系のことに関心がある人が、7月ごろにあるんだなとわかっていると、その前後ぐらいに市報とか市のホームページに自分からアクセスしたりする意味があるので、ざっくりとでも、少なくとも市が主催する講座や事業があるというのを見せることの意味はある。そのかわり、調べてもらわないと具体的な日程は多分、年度当初では間に合うほど全部出てこないというのはあるでしょうから、そういうリスクはあると思うんですね。

あと、富田委員がおっしゃったみたいに、何を見ると出てますよというような、例えば公民館だよりを見るときか、ホームページを見るときか、ツイッターを見ると出ていますよというところを示しておいて、その冊子そのものにはたくさんの情報は載せないというやり方もある。それは広く浅くという感じになるので、関心のない人にとっては流れてしまう情報かもしれないんですけども、そういう情報へのアクセスの仕方を示す、公民館や図書館などの場所を示

したり、地図と一緒に概要的な部分を示すという、手にとりやすいパンフレットみたいな形で、いろいろなところに置いてもらうことによって持って帰ってもらうというパターン、薄いほうというのはそういう形かなと思います。

なので、内容と使い方みたいなことで、紙媒体はつくられるかなと思います。済みません、長くなりました。

西川議長 ありがとうございます。そういう使い分けをするために2種類のものをつくったほうがいいんじゃないかということと、あとはそもそもどういう内容をそこに載せていくかということですね。この場でそれを決めるわけにいけないので、これはまた次回に向けて、考えていくことにしたいと思います。またメールで発信をして、こういう項目を考えてくださいみたいな形で、ちょっと投げかけさせていただくかもしれません。

ありがとうございます。

それで、時間がだんだん押してきたんですけども、最後のその他のところ、いろいろとあるんですけども1つだけ、きょうこの場で議論しておきたいというのがあって。

そもそも情報が必要なんだけれども、届いていない人がいる、何とかしなくちゃいけないといったとき、対象となるのが外国人、しょうがいしゃ、こういう人たちに対する配慮というのが、必ず必要になってくると思います。これは紙媒体だろうと、ネットだろうと同じことになってくるんですよ。

そこのところで具体的に、こういうふうにしたらいんじゃないかということが、これまであまり具体的には議論されてこなかったように思いますので、このことに関してちょっとご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

私から言うのはあれなんですけれども、例えば外国人についていうと、今、国立市のホームページを見ると、上のほうに言葉が選べるようになっていて、英語と中国語と韓国語とタガログ語でしたか、一応セレクトできるようになっているんですよ。ところがそれを選ぶとグーグルの自動翻訳で、ざっと翻訳されてきて、わかることはわかるんですけども、非常に見づらいし、それで見てくださいというのも、なかなかやりにくいんですね。

もう一つは、ホームページはそこにたどり着いてくれる人だったらいいですけども、そもそもホームページのそういうところに、言語を選んで見えるような仕組みになっているということ自体を知らない人も、そもそもいるわけで。それこそ最初に紙のパンフレットでもつくって渡して、みたいなことも必要なのかもしれませんね。

あと、しょうがいしゃのことでいうと、前回話がありましたけれども、一応ユニバーサルデザインの配慮もされてあって、ホームページのつくり自体は見えるようになっているんですけども、結構ふんだんにバナーが用いられていたりして、バナーもちゃんと読み上げるようになっているかもしれませんけれども。今、私は視覚障害者と言ったんですけども、そういう人たちに必要な情報がわかりやすく並べられているかということも、考えなくちゃいけないのかもしれないです。また視覚障害者以外のさまざまな障害者も、当然いると思います。

今、ちょうど翻訳されていますね。あんな形で自動的に翻訳される仕組みになっています。

このところに関して、何かご意見があればいただけますか。

笹生委員 情報提供なんですけど、先日の台風の際にいろいろ情報収集をしていると、最近初めて知ったんですけど、易しい日本語という取り組みが進んでいる。つ

まり日本にいる外国の方が、避難してくださいとか言っても避難という単語を知らないとかいうことがあるので、非常に重要な情報は、小学1年生が読むような言葉遣いで広報をする。それが有効だったという記事を読んだことがあります。国立市は他人への優しさみたいなものが市としてのアイデンティティーという面もありますので、そういうのに力を入れてもいいのかなど。単純に読みやすい日本語で書くだけなんですけど。そういった取り組みがあってもいいのかなと思いました。

以上です。

西川議長 ありがとうございます。

易しいというのは、易しく書こうとして努力して、易しくしているということ。

笹生委員 そうですね。平仮名でとか。

西川議長 なるほど。

ほかにいかがでしょうか。

倉持委員 倉持です。ちょっとまた違う切り口かもしれないんですけど。外国人やしょうがいしゃにかかわる組織や団体とのネットワークみたいなことを、より緊密にすることで、それぞれの団体が持っている情報網とか、ネットワークを生かすというか、お互いに生かし合うみたいなことも有効なんじゃないかなと思いました。国立市内は非常にさまざまな団体があって、それにかかわる市民の方々も熱心に活動されていると思うので、それがつながることによって、お互いメリットがあるような形で、こちらの情報もキャッチしてもらい、こちらもキャッチできるようにするというのも、これを機にいいんじゃないかなんていうふうには思いました。

富田委員 富田です。参考にご紹介しておきたいんですが、もう10何年前になると思うんですが、外国で、日本に行ったらくにたち公民館に行けばいいというのが、世界の方たちに言われていたらしいんですね。何をしていたかということ、もちろん公民館だよりも何か国語が入っていますし、雑誌とかいろいろな情報が、新聞もそうですね、そろえてあるんです。それから職員の対応。ということがされてきたので、そういう先進的な施設が、今はどうかわかりませんが、公民館があるので、そういう現場の対応というのも十分研究して、市としても取り入れていったらいいと思います。

西川議長 ありがとうございます。それは公民館でそういう人たち向けのいろいろな冊子をつくったり、何か具体的にされているわけですか。

富田委員 新聞とか雑誌をそろえている。幾つかの国の。

西川議長 いろいろな言語の雑誌をそろえているということですね。

富田委員 それからもちろん、いろいろなインフォメーションをする職員がいると思います。

西川議長 ありがとうございます。

時間がだんだん押してきたんですけども、ほかにあるでしょうか。

じゃあ、このしょうがいしゃ、外国人に限らず、それ以外でもし何かあれば、出していただければと思います。よろしいですか。

どうもありがとうございました。

きょうの議論を踏まえて、またいろんな意見が出ましたので、それをちょっとまとめて、12月が最終的な報告書を完成させる月になりますので、次回はもう少しこれを具体的に、こういうことをやるべきでしょうというのをつくって、またこの場で議論していきたいと思います。

そこに至るまでには、ちょっとまた事務局からメールで、事前に準備のためのご意見をまとめていただくようお願いをさせていただくかもしれませんので、よろしくをお願いします。ちょっと残りの時間だけで全てをやり尽くすということも難しいですので、それ以上のことは、メールでの発信ということにさせていただければと思います。よろしくをお願いします。

ではこれで、とりあえずきょうの議題は終了です。

次の項目について、事務局からお願いします。研修会のことを。

事務局 今週末でございますけれども、以前お知らせしまして出欠をとらせていただきました、我々が所属しております第2ブロックの研修会が、26日土曜日の1時半から、国分寺市で開催されます。また来月の会議の際には、研修会はこんな内容だったというところを含めて、ご報告させていただきたいと思います。

あと、先日第3ブロックの研修会に、議長と私ということで出席してまいりましたけれども、その件について議長、何かございますか。

西川議長 ほかのところを見て、興味深かったです。皆さんには報告書でご報告したとおりですから、内容については省きますけれども、大変興味深い会議でした。

今週末は国分寺市の会議がありますので、参加してまいりまして、それについてはまた皆様にご報告していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。以上です。

最後に事務局から、次回の日程などについてお願いします。

事務局 次回の日程の確認をさせていただきます。

次回でございますが、11月18日月曜日午後7時から、場所は本日と同じ、第3会議室で開催いたします。

次回、資料としてお出ししたいものが各委員のほうからございましたら、1週間前の11月11日ごろまでにご送付いただきますよう、お願いいたします。

以上でございます。

西川議長 よろしいでしょうか。

よろしければ、以上をもちまして第6回社会教育委員の会を終了いたします。どうも皆様ありがとうございました。お疲れさまでした。

— 了 —